

資料紹介

「川合安平上海写真コレクション」の紹介

孫 安石（非文字資料研究センター 研究員）

租界・居留地班と寄贈資料

非文字資料研究センターの「第4班 東アジア開港場（租界・居留地）における都市の発展と建築調査」（以下、租界・居留地班）の資料収集は、2003年の「21世紀COEプログラム」に採択された「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の当初から始まり、今までの20年の間に中国と日本の租界と居留地に関連する戦前の資料購入と各種の寄贈資料の受け入れという二つの方法で進められてきた。

その中でも特に一般の市民からの寄贈資料の提供は、思いもよらない「宝の山」のような発見があり、本研究が「象牙の塔」の中の研究にとどまらず、社会との連携が必要であることを教えてくれる貴重な機会であった。例えば、現在、非文字資料研究センターのHP (<http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/>) に「中国文化大革命ポスターコレクション」として公開されたポスター資料は、中国研究者の新島淳良氏が1960～70年代に収集した中国と日本のポスター作品を、2017年に奥様の里子氏から寄贈を受けたものであり、コロナ禍のなかで整理、修復が進み、その成果の一部は、2019年に「中国文化大革命を振り返る」というタイトルのシンポジウムとして報告がなされ、2023年度中には非文字資料研究センター叢書『中国文化大革命ポスターを読む』（仮）として、刊行される予定であるという^{（注1）}。

中国文化大革命ポスターコレクション



1. 背景

1950年～1970年代にかけた東西冷戦の時代にアメリカ、ソビエト、中国では「人民」にわかりやすい政治宣伝を展開することを目的に大量の芸術作品（音楽、美術、舞踊、映画など）が動員された。その中でも最も大きな効果を期待されたのがポスターである。アジアでは、中国と台湾、北朝鮮と韓国の間で激しい政治体制の競争が繰り広げられたため、とくに多くのプロパガンダ作品が作成されたといわれている。中でも、中国では1966年～1976年の文化大革命という「動乱」を経験する中で、「美帝」（アメリカ帝国主義）に対抗する共産党と毛沢東を賛美する多くの政治ポスターが制作され、実際に「日常生活」と「労働」の現場で消費された。

2. 世界と日本のポスターの所蔵

これらのプロパガンダ・ポスターに関連する体系的な研究を目指すべく、(1) オランダのUniversity of Amsterdam, Leiden UniversityにStefan R. Landsberger教授による「Chinese propaganda posters コレクション」（約2800枚）があり、(2) 中国では、上海宣伝画芸術中心（shanghai propaganda poster art center）が約6000枚を所蔵して、多くの関心が集まっている。

最近ポスターは、とくに現代美術と「ポップアート」の方面からも注目されているが、日本ではまだ体系的で組織的な収集は見られず、多摩美術大学の秋山孝氏による収集が一部、「秋山孝ポスター美術館」（長岡）に引きつづけていることが知られるのみである。

図1 <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/collection/index.html> の「中国文化大革命ポスターコレクション」

そして、同じく非文字資料研究センターHPに一部が公開されている「近藤恒弘コレクション」は、1929年に天津で生まれ、幼稚園、小学校時代を過ごし、天津日本中学校の4年生の時に終戦を迎えた近藤恒弘氏が、戦後、中学のクラス会の幹事を務めながら、天津ガイドブックを作成しようと収集した日本語、中国語を含めた地図、写真集、絵はがき、個人の写した写真、案内書、電車の切符、関連書籍などを集めたコレクションで2013年から2023年の間、数回にわたり、非文字資料研究センターに寄贈をいただいたものである^{（注2）}。

近藤恒弘コレクション



収集の動機

近藤恒弘氏は1929年に天津で生まれ、幼稚園、小学校を過ごし、天津日本中学校の4年生の時に終戦を迎えた。翌1946年に日本に引揚げ、その後毎年中学のクラス会を開いてきた。2002年には天津でクラス会を開くことが企画され、近藤氏が幹事を引き受けることになった。その際、近藤氏はガイドブックを作成しようと考え、天津に関する資料を集めるための収集のきっかけである。それから12年の間に、絵葉書だけでも1000枚を超えるコレクションとなった。

収集の経過

資料は、近藤氏の思い出に関係するものが重点的に収集された。日文、中文を問わず、地図、写真集、絵葉書、個人の写した写真、案内書、電車の切符、関連書籍などである。近藤氏は、収集した資料を、毎年開かれるクラス会などで回覧したり、コピーを配布したりすることに意義を感じていたという。当初、絵葉書に関しては系統的な分類はせず、増えるに従って地域別の分類をしていたが、その後、独自の工夫がなされた。発売元により微妙に風景が異なることから、業者別の分類や、発売元の印刷の違による分類が採用された。そうすることで、様々な事柄が徐々に解明されてきたという。例えば、写真集に絵葉書と同じ写真が使用されている場合は写真集の発行年月を絵葉書の年代特定の参考にした。年代別の地図から建物等の状態を判別したり、葉書にある道路や建物の状態から年代を判別するなどである。

図2 <http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/collection/index.html> の「近藤恒弘コレクション」

戦前の中国（北京、天津、上海など）を撮影した写真資料

そして、この度、2021年に租界・居留地班は、田島奈都子研究協力者の紹介をへて、川合康夫さんが所蔵する「川合安平上海写真コレクション」として戦前の上海の街並みと都市景観を撮影した写真資料の合計1200枚の寄贈を受けることとなった。

戦前の中国（北京、天津、上海など）を撮影した写真資料は、上海事変、満州事変、そして、日中戦争（当時は、支那事変と呼称していた）と戦争を重ねる度に数多くの戦果、または記録として各種の写真集が刊行された。

例えば、戦争を遂行する日本政府のお墨付きをもらった『写真週報』は、1938年2月の創刊第1号から1945年7月の第374・375合併号まで内閣情報部の



図3 『写真週報』創刊号の表紙（1938年2月）



図4 『支那事变画報』第11輯の表紙（大阪毎日新聞社・東京日日新聞社発行）

検閲を経た「国策宣伝」の写真と記事を、日本国内はもちろん、当時の植民地であった台湾、朝鮮、満州、中国などを含め、数多く掲載している。

その他にも帝国陸海軍から刊行された写真集として、

- ・歩兵第三十五連隊編『支那事变記念写真帖』（歩兵第35連隊、1939年）
- ・牛島部隊特輯『支那事变出征記念写真帖：第1輯』（牛島部隊、1939年）
- ・久納部隊特輯『支那事变出征記念写真帖：第2輯』（久納部隊、1939年）
- ・木更津海軍航空隊『支那事变記念写真帖』（1939年）
- ・第12航空隊記念帖編纂委員会編『支那事变記念写真帖』（第12航空隊記念帖編纂委員会、1940年）
- ・山砲兵第1連隊記念写真帖編纂委員編『支那事变記念写真帖』（同写真帖編纂委員、1940年）
- ・蓬部隊編『支那事变記念写真帖』（1940年）
- ・支那事变記念海軍写真帖刊行会編『報道写真海軍作戦記録』（国際報道、1944年）などがあり、当時の新聞や雑誌の編集にかかるものとしては、
- ・読売新聞社編『特派員決死撮影支那事变写真帖』（読売新聞社、1938年）
- ・東京朝日新聞社編『支那事变写真全輯』（東京朝日新聞社、1938年）
- ・東京日日新聞社『支那事变聖戦記念郷土部隊写真帖』（東京日日新聞社、1938年）などが刊行された。そして、個人または民間のあいだでも中国へ出征する皇軍兵士の出征を記念するための各種の絵はがきや写真帳などが刊行された。例えば、天津に本拠をおいた中戸川洋行は、その代表的な印刷所の一つで、
- ・『北支那駐屯記念写真帖：大分連隊派遣中隊』（中戸川洋行、1930年）

- ・『北支那駐屯記念写真帖：甲府連隊派遣中隊』（中戸川洋行、1930年）
- ・筒井磯男『北支民衆風俗写真帖』（中戸川洋行、1937年）
- ・中戸川洋行編輯『支那事变出征記念写真帖：昭和十二年北支戦線篇』（中戸川洋行、1938年）
- ・中戸川洋行編『全北支風景写真帖：NORTHCHINA』（中戸川洋行）
- ・佐々木三郎『北支民衆風俗写真帖』（中戸川洋行）
- ・『支那事变記念写真帖：戦車第二大隊』（中戸川洋行）
- ・『絵葉書帳：北平名所絵葉書』（中戸川洋行）などを発行している。

筆者が直接、原紙を確認したなかで、大阪毎日新聞社、東京日日新聞社が共同で発行した『支那事变画報』（第1号～第3号までは『北支事变画報』、第4号～第101号までは『支那事变画報』、第102号～第140号は『大東亜戦争画報』に改題した）と週刊朝日・アサヒグラフ臨時増刊の『支那事变画報』（第1号～2号は『北支事变画報』、第3号は『日支事变画報』、第4号～第33号は『支那事变画報』に改題した。筆者が確認したのは、第33号の1939年10月22日発行までである）は、専門の「従軍記者」と「従軍カメラマン」が画報の制作に関わったことから極めて鮮明な戦時下の北京、上海、広州などに関連する写真を残している。

「川合安平上海写真コレクション」の受け入れ

以上、戦前の中国を撮影した日本側の写真資料が日本政府、陸海軍、新聞社、民間の印刷所という複数の制作母体によって数多くが現存していることに触れたが、実は個人が撮影した写真などはその出所や日時などを特定

することができないなどの理由からその多くは、貴重な資料として活用、保存されことなく、関係者の物故と共に散逸したり、または廃棄される場合が多い。

ところが、今回、非文字資料研究センターが寄贈を受けた「川合安平上海写真コレクション」は、1940年から1945年までの戦前の上海の街並みを、撮影した場所と時間と共に記録している点から貴重な資料と言わなければならない。この「川合安平上海写真コレクション」は2022年に資料のデジタル化が完了し、今後、非文字資料研究センターの『非文字資料研究』や展示、そして、書籍として活用していく予定であるが、この度、資料を寄贈していただいた川合康夫氏の寄贈の経緯についてお話をうかがう機会（2023年5月19日、租界・居留地班第83回研究会、川合康夫氏による報告）があったので、以下、当日の内容（資料）に沿って川合安平氏の簡単な履歴を紹介したい。

「川合安平（かわいやすへい）」は、1912年（明治45年2月11日）に生まれ、2001年（平成13年6月20日）に亡くなった。川合が海軍軍属（建築技師）としての上海時代を送ったのは、1940年8月から1945年3月までのおよそ4年半の期間で、川合は1940（昭和15）年8月の初めに佐世保海軍鎮守府での服務を始め、8月中旬には支那方面艦隊設営部に配属を命じられた。そのときの部長は権藤技師（大佐相当官）であった。その後の1941（昭和16）年末頃に設営部は「第一海軍建築部」に改称し、その時の部長は藤井技師であった。そして、1943（昭和18）年末には第一海軍建築部は「第一海軍施設部」に改称したが、そのときの技術大佐は同じく藤井技師であった。

川合は、その後、1945年3月末に大阪海軍施設部に転勤を命じられ、大陸廻りで帰国し、8月には徳島で終戦を迎えた。戦後は大阪の安井建築設計事務所で定年退職まで勤務し、70歳頃まで同事務所で嘱託として勤務した。今回、非文字資料研究センターに寄贈したアルバムは2冊で、一冊目は、昭和15年8月18日～昭和17年9月16日までを、二冊目は、昭和17年9月13日から昭和20年1月28日までを記録した写真である。



昭和16年3月25日撮影
右 川合安平 左 隣家の上村海軍上等兵曹



一施会佐世保大会 平成3年5月23日 九十九島観光ホテル



①アルバムとネガフィルム



②アルバムとネガフィルム

①昭和15年8月18日～昭和17年9月16日までのアルバム

（使用カメラ六桜社ベビーパールヘキサー4.5付、フィルムの大きさはベスト半裁判、番号1～660枚の紙焼き写真（29mm×38mm）および同じネガフィルム付き）

②昭和17年9月13日から昭和20年1月28日までのアルバム

（使用カメラBaldax テッサー 3.5付フィルムの大きさブローニー半裁判、番号1～676枚の紙焼き写真（39mm×52mm）および同じネガフィルム付き）

その他に前回の寄贈資料の中には含めなかったもので、写真を撮影した日時と天候、露出の絞り値などを克明に記録した手帳が出てきたので合わせて寄贈したい旨の話があった。

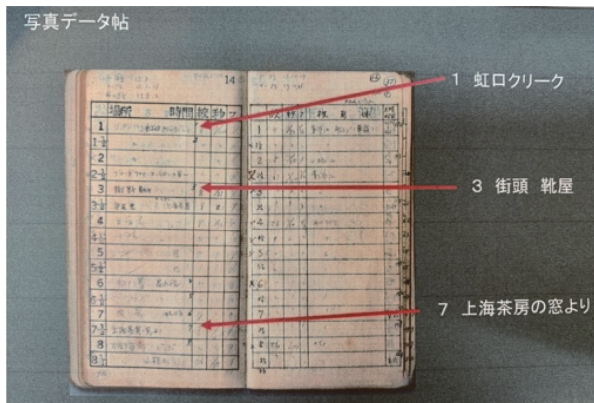


図5 川合安平の手帳。写真撮影の日時、天候、露出の絞り値などを細かく記入している

以上、非文字資料研究センターが「川合安平上海写真コレクション」を受け入れることになった経緯について紹介した。今後も貴重な寄贈資料の収集と整理を進め、非文字資料研究の一助となることにしていきたい。

【注】

- (注1) 「中国文化大革命ポスターコレクション」を活用した研究成果として、シンポジウム「中国文化大革命を振り返る」(2019年2月)、大里浩秋「2018年度 非文字資料研究センター第4回公開研究会 中国文化大革命を振り返る—日本人はどう受けとめたのか」(『非文字資料研究センター News Letter No. 42』、2019年)、非文字資料研究叢書4『中国文化大革命ポスターを読む』(仮)(2024年3月予定)などがある。
- (注2) 「近藤恒弘コレクション」を活用した研究成果としては、以下を参照。近藤恒弘「戦前中国の風俗絵はがきの世界」(近藤恒弘氏 寄贈) 支那に於ける民衆風俗 第一輯(『非文字資料研究センター News Letter No. 38』、2017年)、菊池敏夫「戦前中国の風俗絵はがきの世界」(近藤恒弘氏 寄贈) 支那に於ける民衆風俗 第三輯(『非文字資料研究センター News Letter No. 39』、2018年)、大里浩秋・栗原純(聞き手)「近藤恒弘氏に天津日本租界での体験を聞く」(『東アジアにおける租界研究』、東方書店、2020年)、孫安石「天津の『日華学報』排斥運動と写真資料」(『東アジアにおける租界研究』、東方書店、2020年)、孫安石「戦前中国の風俗絵はがきの世界」(近藤恒弘氏寄贈) 満洲国に於ける農民の生活 其一(『非文字資料研究センター News Letter No. 45』、2021年)。